

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		上野の山文化ゾーンフェスティバル				所管	文化産業観光部 文化振興課		
事務事業の概要	行政計画	なし	事業NO.		計画事業名	事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標]					[事業開始] 平成 4 年度		
		[小 柱]					[終了予定] - 年度		
		[施 策]							
	根拠法令等	その他	[法令等名]	上野の山文化ゾーン連絡協議会設立規約					
	事業対象	区民をはじめ広く一般							
	事業目的	国内で類を見ない多様な文化施設が集まる上野の山を、施設間の連携・交流を図ることにより、芸術・文化の拠点として発展させ、その魅力を広く全国に向けて発信する。また、区民が文化に触れる機会を作る。							
	事業内容	平成2年に設立された「上野の山文化ゾーン連絡協議会」メンバーによる協働事業(25年度末現在25団体が加盟)。9月から11月にかけて、「上野の山文化ゾーンフェスティバル」を開催し、展覧会や、各施設の講師による、講演会シリーズを実施するほか、各施設の展覧会、イベント等をPRするパンフレットを作成する。また、上野の山の施設間の連携・交流を図ることを目的とした連絡協議会の開催や、各施設の年間スケジュールを紹介するパンフレットや、子ども向け、英語版のパンフレット作成を行う。							
委託の有無	一部委託	委託内容	新聞への広告掲載						
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	講演会シリーズ参加人数	(人)	1,550	1,469	1,838	1,359		
		講演会シリーズアンケートの満足度	(%)	100.0	93.0	92.0	93.0		
	成果指標								
	決算額	(単位：千円)			2,477	2,662	2,343		
	事務事業コスト	人にかかるコスト(人件費など)			10,351	10,413	8,948		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			2,477	2,441	2,344		
		(単位：千円) その他のコスト(扶助費・補助費など)			0	222	0		
		総経費			12,828	13,076	11,292		
	財源項目	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0		
(単位：千円) その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0				
一般財源(区負担額)			12,828	13,076	11,292				
前年度から改善した事項	フェスティバル20周年の記念事業として24年度に実施した「寛永寺僧侶と歩く上野公園めぐり」を25年度も続けて実施することにより、フェスティバル内容の充実に努めた。また、パンフレット配布協力機関も年々増加しており、多様な文化施設が揃う上野の山のより一層のPRと連携が図られた。								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	多様な文化施設が揃う上野の山は、貴重な文化資源であり、各施設が連携し、芸術・文化の拠点として発展に努め、魅力を向上していくことは、区の文化振興にとって不可欠である。						
	効率性	3	本事業の支出の大半を占めるのは、パンフレット印刷費であり、講演会シリーズ等のイベントについては、各施設の費用負担で実施している。今後も各施設と連携を図りながら、事業内容の充実・PRを効果的に行っていく。						
	手段の適切性	3	各施設は個々にPR等を行なっているが、上野の山全体の情報を取りまとめ、発展と魅力の発信に取り組んでいる団体は他に存在しておらず、手段は適切である。						
	目的達成度	3	講演会シリーズ等のイベントは、毎年定員を上回る申込みがあり、文化に触れる機会の提供に寄与している。また、東京・春・音楽祭等の上野の山で開催するイベントへ協力を行なうなど、施設間の連携・交流は一層深まりつつあり、芸術・文化の拠点としての上野の山の発展への効果は得られている。						
[評価の理由](区民生活への影響を十分考慮すること)						評価結果	今後の方向性		
国立西洋美術館の世界遺産登録の推進・2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を踏まえ、区の貴重な文化資源であり、多くの文化施設が集まる上野の山の魅力を国内だけでなく世界へ発信していくためにも、今後も上野の山の各施設との連携・協力を図りながら実施していく。							維持	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	